

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武	保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	国保病院事業会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
16010010	基本施策	6	保健・医療の充実		事業優先度	A	地域力の向上（活力・生産・協働） のために最優先して行うべき事業	
	単位施策	5	地域医療の確立					
事 業 名	医師確保対策事業				担 当 課	国保病院・老健施設		
事 業 期 間	令和5年度～令和9年度		事業主体	雄武町	関 係 課	総務課		
事業指標	常勤（換算）医師数				数 値 目 標	3人		

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
医師確保対策 情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣				情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣		情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣		情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣		情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣		情報収集、面談旅費 民間医師紹介業者への求人 非常勤医師紹介業者からの仲介派遣	
				年度別数値目標		3人		3人		3人		3人	
財 源 内 訳		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
	国庫支出金	30,000	469	6,000	412	6,000	57	6,000		6,000		6,000	
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	19,217	0	7,217	0	3,000	0	3,000		3,000		3,000	
合 計 (千円)		49,217	469	13,217	412	9,000	57	9,000	0	9,000	0	9,000	0
特 定 財 源	国保調整交付金		評価・実績	実施内容		●情報収集、関係機関訪問旅費 ●民間医師紹介業者への求人 ●非常勤医師紹介業者からの仲介派遣 ●医師ツアーの実施							
				評価結果		A－継続／現状維持							

事業名	医師確保対策事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	雄武町民		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	常勤（換算）医師数	
抱える課題やニーズ	地域性から医師や医療従事者の確保が難しい。将来的に地域医療を維持するためには、近隣医療機関との連携も不可欠であり、常勤（換算）医師の確保による安定した医療体制を構築する必要がある		①	指標（指標計算式／解説）	
				目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか（意図）	常勤（換算）医師を確保し、安定した診療体制を維持するとともに、安心感のある医療体制の構築を目指す必要がある		②	常勤（換算）医師の確保	目標年度
					令和6年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	町民への安定的な医療支援の継続が可能となり、町民の健康・安全及び効率的な病院運営を推進することができる				目標値
					3名
内容（どのような手段で何を行ったか）	常勤医師の確保 常勤換算医師の確保				実績値
					3名
					達成度
					100.0 %
					目標年度
					令和6年度
					目標値
					実績値
					達成度
					#DIV/0! %
	常勤医師1名が令和6年度中に退職となったが、後任医師を年度内に内定し令和7年度の医師2名体制を確保することができた。				
	医師求人情報掲載（有料ホームページ等）、関係協力機関からの仲介派遣等を活用し常勤換算では、医師3名を確保（維持）することができた				

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	医療法施行規則により病院に置くべき医師の員数については常勤換算で3名と定められているとともに、安全かつ効率的な地域医療体制の確保は、公立病院開設者である町としての責務である。
必要／概ね必要	☐	全部	
課題あり	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	常勤医師の1名の退職はあったものの、非常勤内科医師の平日診療、旭川医大からの小児科及び耳鼻咽喉科医師の定期派遣を受け、常勤換算では目標値を達成できた。町民の受診機会も確保されており、設定した目標を達成することができている。
有効／概ね有効	☒ 達成	
課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	旭川医大、札幌医大、個人医師及び北海道地域医療振興財団との連携により安定的な医師派遣体制を整えてきたところであり、今後もコスト抑制が期待できる状況となっている。
効率的／概ね効率的	☐ 事業費抑制	
課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☒ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民全員の健康及び医療受診体制に係わるものであることから公平性は保たれていると判断する。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
常勤医師1名体制の時期はあったものの、非常勤医師及び派遣医師により常勤換算では医師3名を維持し、計画的な診療体制の確保が図られ、計画通り事業が進んでいる。		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			
社会情勢や当院の運営状況等を見極め、引き続き関係機関との積極的な連携強化に努め、病院機能として安定した診療体制を構築し、常勤換算3名の医師確保を維持する必要がある。			

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実		会 計 区 分	国保病院事業会計		全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
16010020	基本施策	6	保健・医療の充実		事業優先度	B	基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	院内ネットワーク整備期間（令和6年度～令和10年度）	
	単位施策	5	地域医療の確立						
事業名	病院情報ネットワーク事業				担当課	国保病院・老健施設			
事業期間	令和5年度～令和9年度		事業主体	雄武町		関係課			
事業指標	電算システム運用数				数値目標	年5件			

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守				医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守		医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守 院内ネットワーク整備		医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守 院内ネットワーク整備		医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守 院内ネットワーク整備		医事・会計・健診・薬品在庫システム保守 (リース) レセプト電算システム保守 オーダリングシステム保守 看護記録システム保守 医薬品情報管理システム保守 院内ネットワーク整備	
年度別数値目標				5件		5件		5件		5件		5件	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	50,754	17,699	8,778	8,778	10,494	8,921	10,494		10,494		10,494	
合 計 (千円)		50,754	17,699	8,778	8,778	10,494	8,921	10,494	0	10,494	0	10,494	0
特 定 財 源			評 価 ・ 実 績	実施内容	※簡素化対象事業								
				評価結果	A－継続／現状維持		A－継続／現状維持						

事業名	病院情報ネットワーク事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	電算システム運用数	
抱える課題やニーズ		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか （意図）		① 医療関係システムの保守	目 標 年 度	令和6 年度
			目 標 値	5 件
			実 績 値	5 件
			達 成 度	100.0 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的		②	目 標 年 度	令和6 年度
			目 標 値	
			実 績 値	
			達 成 度	#DIV/0! %
内容（どのような手段で何を行ったか）				

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

	☐	義務的なもの	
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	全部	
	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

		設定した目標値の達成状況	
		☐ 達成	
有効／概ね有効 ／課題あり		☐ ほぼ達成	
		☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

		判断の理由	
		☐ 事業費抑制	
		☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的 ／課題あり		☐ 時間短縮・作業軽減	
		☐ その他	

（4）事務事業の公平性

		判断の理由	
		☐ 受益者負担がある	
		☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平 ／公平でない		☐ 受益が一部に偏る	
		☐ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		

今後の展開方向 （Action）			
継続／現状維持			

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武		保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	国保病院事業会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
16010030	基本施策	6	保健・医療の充実			事業優先度	B	基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	
	単位施策	5	地域医療の確立						
事 業 名	医療機器整備事業					担 当 課	国保病院・老健施設		
事業期間	令和5年度～令和9年度		事業主体	雄武町		関 係 課			
事業指標	更新機器数					数 値 目 標	20機種		

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
医療機器の更新整備				医療機器の更新整備		医療機器の更新整備		医療機器の更新整備		医療機器の更新整備		医療機器の更新整備	
				年度別数値目標		6機種		5機種		3機種		3機種	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	13,883	11,000	2,750	3,850	2,750	7,150	3,300		2,333		2,750	
	道支出金	6,941	5,500	1,375	1,925	1,375	3,575	1,650		1,166		1,375	
	地方債	185,500	125,600	68,400	65,300	67,700	60,300	37,400		3,500		8,500	
	その他	0	0										
	一般財源	206	651	75	209	5	442	100		1		25	
合 計 (千円)		206,530	142,751	72,600	71,284	71,830	71,467	42,450	0	7,000	0	12,650	0
特 定 財 源	国保調整交付金 過疎対策事業債 病院事業債		評 価 ・ 実 績	実施内容	●医療機器の更新整備 生体情報モニタシステム 一般X線撮影装置 デジタルラジオグラフィ デジタル画像管理サーバー 全自動散薬錠剤分包機 耳鼻科ユニット		●医療機器の更新整備 輸液ポンプ 処置用ベッド CT装置 内視鏡システム 多項目自動血球分析装置						
					評価結果		A－継続／現状維持						

事業名	医療機器整備事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	雄武町民		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	安定した医療提供機器の整備	
抱える課題やニーズ	医療機器の老朽化等に伴う更新及び最新医療機器の導入		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
			① 必要に応じた医療機器の整備	目 標 年 度	令和6 年度
目 標 値	5 機種				
実 績 値	5 機種				
どのような状態になることを目指したのか（意図）	患者のニーズに即した医療機器の整備により、適切な医療の提供をめざす		②	達 成 度	100.0 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	適切な医療の提供により、町民の健康増進が図られる			目 標 年 度	令和6 年度
				目 標 値	
			実 績 値		
				達 成 度	#DIV/0! %
内 容（どのような手段で何を行ったか）	医療機器の更新	当初の計画どおり機器の更新を図った。			

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	安定かつ適切な診療体制と24時間救急医療体制を維持するため医療機器の計画的な更新（購入）は必要である。
必要／概ね必要		☐ 全部	
課題あり		☐ 一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	計画的な医療機器の更新により医療体制が確保できており、期待する効果は得られている。
	☒ 達成	
有効／概ね有効	☐ ほぼ達成	
課題あり	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	更新機器の選定にあたっては、医師及び看護師等の医療スタッフと協議するとともに、購入費等の精査を行うことで、事業費の抑制に繋がっているものとする。
	☒ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☐ 時間短縮・作業軽減	
課題あり	☐ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民全員の健康及び医療受診体制に係わるものであることから公平性は保たれている。
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平	☐ 受益が一部に偏る	
公平でない	☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
医療機器の整備には、多額の費用が伴うことから計画的に進める必要がある。令和6年度においても当初の計画通り医療機器の整備更新を図ることができた。		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			
町民が安心する医療サービスの提供及び医療機器の経年劣化等に対応するため、計画的に整備を進めており、今後も更新等については必要性等も改めて検証を行った上で事業を展開していく。			

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実		会 計 区 分	国保病院事業会計		全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
16010040	基本施策	6	保健・医療の充実		事業優先度	A	地域力の向上（活力・生産・協働） のために最優先して行うべき事業		
	単位施策	5	地域医療の確立						
事 業 名	医療従事者確保対策事業				担 当 課	国保病院・老健施設			
事 業 期 間	令和5年度～令和9年度		事業主体	雄武町	関 係 課	総務課			
事業指標	医療従事者確保人数				数 値 目 標	年3人			

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容		
医療従事者確保対策 求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料				求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料		求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料		求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料		求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料		求人依頼、面談旅費 広告掲載料 紹介手数料		
年度別数値目標				3人		3人		3人		3人		3人		
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	
財 源 内 訳	国庫支出金	0	1,578		588		990							
	道支出金	0	0											
	地方債	0	0											
	その他	0	0											
	一般財源	10,000	2,168	2,000	1,385	2,000	783	2,000		2,000		2,000		
合 計 (千円)		10,000	3,746	2,000	1,973	2,000	1,773	2,000	0	2,000	0	2,000	0	
特 定 財 源	国保調整交付金		評 価 ・ 実 績	実施内容	●紹介手数料		●紹介手数料 ●関係機関訪問旅費							
			評価結果	A－継続／現状維持		A－継続／現状維持								

事業名	医療従事者確保対策事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	雄武町民		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	医療従事者確保人数	
抱える課題やニーズ	看護師等の医療技術職員の確保が極めて困難な状況となっており、経営に必要な職員の雇用が求められている		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
				目 標 年 度	令和6 年度
どのような状態になることを目指したのか（意図）	病院として求められる機能維持のために必要とされる医療技術職員の安定的な確保		①	目 標 値	3 名
				実 績 値	8 名
その結果、どのような成果を実現したいか※成果＝目的	町民に対して、安心感のある良質な医療サービスの提供		②	達 成 度	266.7 %
				目 標 年 度	令和6 年度
内容（どのような手段で何を行ったか）	関係機関等への要請及び民間紹介会社の活用 医療技術職員の退職に伴う補充採用			目 標 値	
				実 績 値	
	医療技術職員教育機関への訪問、町ＨＰ及びハローワークのほか、民間事業者ＨＰ（成功報酬制）への掲載、民間事業者からの紹介を活用 看護師6名（正職員3名、応援ナース3名）、放射線技師1名、臨床工学技士1名を採用			達 成 度	#DIV/0! %

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	医師の確保と同様に、医療技術職員の必要数確保は病院機能の維持において重要であり、必要な事業である。
必要／概ね必要		☐ 全部	
課題あり		☐ 一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況		欠員となっていた看護師職員について、民間事業者からの紹介により適切な人数の確保が図られた。 今後においても人材確保の方策として有効と考えられる。
		☒ 達成	
有効／概ね有効		☐ ほぼ達成	
課題あり		☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由		町ＨＰ及びハローワークへの募集掲載に加えて民間事業者等からの情報収集や紹介により、即時性かつ継続性の高い人員確保が図られた。
		☐ 事業費抑制	
効率的／概ね効率的		☐ 人員削減	
課題あり		☐ 時間短縮・作業軽減	
		☒ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由		町民全員の健康及び医療受診体制に係わるものであることから公平性は保たれていると判断する。
		☐ 受益者負担がある	
公平／概ね公平		☐ 受益者負担がない	
公平でない		☐ 受益が一部に偏る	
		☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
公的機関及び民間事業者に対しての求人要請により、医療技術職員の欠員を補充することができ、病院機能を維持することができた。	同左	

今後の展開方向 （Action）	継続／現状維持	継続／現状維持	
	医療技術職員の確保は、医師確保と同様に病院機能維持のためには不可欠であることから、今後も継続して民間事業者からの紹介等を有効活用し、技術職員を適宜、適切に募集・確保する必要がある。	同左	

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2 安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	国保病院事業会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
16010070	基本施策	6 保健・医療の充実	事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働）のために最優先して行うべき事業	
	単位施策	5 地域医療の確立	担 当 課	国保病院・老健施設	
事 業 名	新ボラリスネットワークシステム環境整備事業		関 係 課		
事業期間	令和5年度～令和7年度	事業主体	雄武町		
事業指標	①システム構築検討報告数 ②策定計画数 ③システム環境整備数		数 値 目 標	①1報告 ②1計画 ③1ネットワーク	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
新ボラリスネットワークシステムの構築検討 新ボラリスネットワークシステムの構築				新ボラリスネットワークシステムの構築検討		新ボラリスネットワークシステムの構築検討 （計画承認申請）		新ボラリスネットワークシステム環境整備					
				年度別数値目標		①1報告		②1計画		③1ネットワーク			
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	12,650	0					12,650					
	地方債	12,600	0					12,600					
	その他	0	0										
	一般財源	50	0					50					
合 計 (千円)		25,300	0	0	0	0	0	25,300	0	0	0	0	0
特 定 財 源	地域医療情報連携ネットワーク構築事業補助金 過疎対策事業債 病院事業債	評 価 ・ 実 績	実施内容	●新ボラリスネットワークシステムの 構築検討		●新ボラリスネットワークシステムの 構築検討（計画承認申請）							
				評価結果		A－継続／内容の見直し・変更		A－継続／拡充					

事業名	新ボリスネットワークシステム環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	雄武町民		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	策定計画数		
抱える課題やニーズ	脳の病気については一刻を争うものであり、時間の経過によって後遺症にも影響があるため、転送先の基幹病院で速やかな処置を行える体制整備が求められている		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値		
どのような状態になることを目指したのか（意図）	脳の病気の場合に転送を行うことが多い名寄市立総合病院とのボラリスネットワークシステムの構築によりCT画像や検査データの相互共有が可能となり、転送後の処置が速やかに行える		①	策定計画数	目 標 年 度	令和6 年度
					目 標 値	1 計画
					実 績 値	1 計画
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	町民の脳の病気による死亡率の低下及び後遺症の軽減		②		達 成 度	100.0 %
					目 標 年 度	令和6 年度
					目 標 値	
内容（どのような手段で何を行ったか）	策定計画数	事業の財源として活用する「地域医療情報連携ネットワーク構築事業補助金」の令和 7 年度実施希望調査への報告のため、事業計画書を作成し北海道へ提出した。			実 績 値	
					達 成 度	#DIV/0! %

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	脳の病気については一刻を争うものであり、時間の経過によって後遺症にも影響があるため、基幹病院で速やかな処置を行える体制整備は町民の生命を守るためにも必要である。
必要／概ね必要 ／課題あり		☐ 全部 ☐ 一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	事業実施のための計画の策定を行い、次年度の整備に向けた準備を行うことができた。
	☒ 達成	
有効／概ね有効 ／課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	新ボリスネットワークシステムの構築により、救急搬送時の迅速な治療が可能となる。また、時間経過による後遺症が軽減されることで医療費の抑制も期待できる。
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的 ／課題あり	☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民全員の健康及び救急医療体制に係わるものであることから公平性は保たれていると判断する。
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平 ／公平でない	☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
令和7年度の事業実施に向け、事業の財源として活用する補助事業の調査報告、事業計画書の作成提出を行った。	同左	

今後の展開方向 （Action）	継続／拡充	継続／拡充	
	システム導入に向け、情報収集を適宜行うとともに、内示後速やかに交付申請の手続きを行い、地域住民の医療体制の確保に努める。	同左	

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO.	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武	保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	国保病院事業会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
16010080	基本施策	6	保健・医療の充実		事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働） のために最優先して行うべき事業		
	単位施策	5	地域医療の確立					
事業名	経営強化プラン進捗管理事業				担 当 課	国保病院・老健施設		
事業期間	令和6年度～令和9年度	事業主体	雄武町		関 係 課	財務政策課		
事業指標	管理計画数				数 値 目 標	1計画		

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
経営強化プラン進捗管理						経営強化プラン実行支援業務		経営強化プラン実行支援業務		経営強化プラン実行支援業務		経営強化プラン実行支援業務	
				年度別数値目標		1計画		1計画		1計画		1計画	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	16,560	3,960			3,960	3,960	4,200		4,200		4,200	
合 計 (千円)		16,560	3,960	0	0	3,960	3,960	4,200	0	4,200	0	4,200	0
特 定 財 源			評 価 ・ 実 績	実施内容	●経営強化プラン実行支援業務								
				評価結果	A－継続／現状維持								

事業名	経営強化プラン進捗管理事業	評価者 管理職 職氏名	国保病院事務長	山星 浩之
		評価者 作成者 職氏名	国保病院事務次長	柳谷 周一

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	雄武町民	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	管理計画数
抱える課題やニーズ	医師・看護師等の不足、人口減少・少子高齢化に伴う医療需要の変化等により、持続可能な経営を確保するのが難しくなっている	指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか（意図）	雄武町の実態に則した経営強化プランを推進することで限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用し、病院経営を強化していく	①	目標年度 令和6年度 目標値 1計画 実績値 1計画 達成度 100.0 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	病院経営の強化によって、地域の医療機関としての役割や機能を永続的に発揮し続けることで、町民に対し良質な医療サービスを提供する	②	目標年度 令和6年度 目標値 実績値 達成度 #DIV/0! %
内容（どのような手段で何を行ったか）	管理計画数	令和6年3月に策定した強化プランの進捗管理について業務委託を行い、医療収益の向上のための、診療報酬の増点に係る報告を受け、施設基準の見直しなど、計画の実効性を高める取り組みを行った。	

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	公立病院の経営強化プランについては、持続可能な地域医療提供体制を確保するために必要な計画である。
必要／概ね必要 ／課題あり		☐ 全部 ☐ 一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	雄武町の実態に則した病院経営強化プランを適切に管理することで、経営課題改善に向けた取り組みを行うことができた。
有効／概ね有効 ／課題あり	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	業務の委託先については、策定計画に精通している経営強化プランの策定事業者を選定することで進捗管理について効率的に行えた。
効率的／概ね効率的 ／課題あり	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民全員の健康を守る、医療機関の体制確保に係わる計画であることから公平性は保たれていると判断する。
公平／概ね公平 ／公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
経営課題解決に向け、進捗管理を行うことで、施設基準の見直し等、医療収益の向上に係る取り組みを行うことができた。		

今後の展開方向 （Action）			
継続／現状維持			
強化プランでは計画期間中の病床転換などの取り組みが計画されており、今後も進捗管理を的確に行い、計画期間中の経営課題の解決に向けた取り組みを継続する必要がある。			

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止